

競技スポーツがジュニア選手に及ぼす影響に関する研究 ～大人達によるスポーツ教育の歪み～

A study of influence that competition sports exert on junior player ～Distortion of sports education by adults～

1K04A136-7

高田 麻里葉

指導教員

主査 友添秀則先生

副査 奥野景介先生

【研究の動機・目的】

私は4歳から水泳を始め、長年水泳競技を続けてきた。体育会水泳部に入部してからも地元のスイミングクラブに所属していたので、多くのジュニア選手と関わる機会があった。そこで見てきたものは、親からの期待がストレス・プレッシャーとなって試合で良いパフォーマンスを発揮することができない選手や、理不尽な理由によってコーチから叱責される選手、競技のストレスから過食に陥る選手、挫折して早くに競技から離れてしまう選手達であった。自分の経験を思い返しても、現在の状況を見てみても、競技スポーツがジュニア選手に悪影響を及ぼしているケースが少なくないことがわかる。この先も競技スポーツに真剣に取り組んでいこうとしているジュニア選手達のためにも、この様な状況を見過ごしていきたくないと感じた。

本研究では、競技スポーツがジュニア選手に及ぼす影響の問題点を明らかにし、その問題の対処策や今後のジュニア選手育成の在り方について研究・考察していく。それと同時に、英才教育や勝利志向の指導によってジュニア選手を育成している指導者や親達の選手育成に対する考え方を良い方向へ導いていきたい。そのことによって、ジュニア選手達にとってよい環境が整えられ、選手達に生じている問題が解決されることを強く望んでいる。

【研究の方法】

本研究は、既存の文献及び雑誌や関連ホームページを参考・講読して行う文献研究である。

【第1章】

第1章では、わが国におけるジュニア選手育成の現状を述べ、その問題点を指摘している。子どもが減り続けている現在、日本のスポーツ界では限られた子ども達を効率的にエリートスポーツ選手に養成しようとするスポーツ英才教育が加速している。英才教育による選手の若年化は、スポーツ選手の落ちこぼれの若年化を進めるという問題を発生させている。また、英才教育による競技スポーツの高度化が子どもの体力の二極分化につながっているという問題を生起している。

【第2章】

子どもと競技スポーツの関係は非常にデリケートで、大人が子どもの才能を伸ばし可能性を拡げようとしたことが、子どもからスポーツの楽しさを奪う結果につながってしまうことがある。第2章では、「競技スポーツが体に及ぼす影響」「競技スポーツが心に及ぼす影響」「大人の関与が及ぼす影響」の3つの視点から、競技スポーツがジュニア選手に及ぼす影響の問題点を明らかにしている。

【第3章】

ジュニア選手に生じる心身のトラブルを解決していくことは、スポーツ教育の課題の一つであると考え。第1節では、ジュニア選手の心身に問題が生じる原因を明らかにし、その対処策を考察している。第2節では、大人の関与によって及ぼされる問題の対処策として「競技における過程と結果の考え方」と「ジュニア選手に対するほめ方・叱り方」の2つの視点から、大人達が今後どのように態度を改めなければいけないかについて考察している。

また、第2章まで競技スポーツはジュニア選手に対して様々な弊害を生じさせるということを述べてきたが、周囲の大人達の力によっては競技スポーツを教育の教材として取り入れることも可能であると考え。第3節では、周囲の大人がジュニア選手達に養わせるべき感情に関する諸能力や、ジュニア選手を取り巻く大人の役割について考察している。

【結章】

今後の課題として、ジュニア選手に生じるリスクを減らしていくために「時間と金をかけてまで資格を取る必要はない」という考えを持っている無資格指導者を公認指導者に引き入れていく必要性を挙げている。また、子どもの競技スポーツはあくまでも子どもの生活の一部であって、全てではないという認識を持つことが大切である。子どもにとっての競技生活以外の場面と競技生活を関連させながら、子どもの競技スポーツが彼らの生活に対していかなる影響を及ぼしているかに目を向けていくことが課題となるだろう。